aNotHr worlD　～戻りたいのに忘れたい時間～

ユウ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ａＮｏｔＨｒ　ｗｏｒｌＤ　　～戻りたいのに忘れたい時間～

【Ｎコード】
Ｎ７２３３Ａ

【作者名】
ユウ

【あらすじ】
気が付いたら三つの月がキレイに輝く夜だった。一緒に居た友人達は跡形もなく消えてしまった。昇ってくる四つの太陽に照らしだされたそこは…

序曲『冷たい雨』（前書き）

稚拙で読みにくい文章ですが、皆さんに読んで頂ければ幸いです。

苦情、問題指摘、悪口、感想等をお待ちしてますので、是非、清き御一報をよろしくお願いします。

序曲『冷たい雨』

雨

雨は嫌いじゃない

雨に打たれれば、心が洗われるような気がするから

暗い世界で過ごしている、汚れたボクのココロを…。

だからといって雨が好きなわけでもない

まして、雨に好かれているとは微塵も思わない。

そう…

あの時もどしゃぶりだった

ココロのオクにしまいこんだ残酷な…

残酷な…

2曲目『平和』

・・・い・・・・ろ・・・・！

『？』

「…きろ！」

『誰だ？僕の安らぎの時間を邪魔する奴は…Ｚｚｚ』

「起きろ！バカタレ！！」

『ウルサイ！ほっといてくれよ…Ｚｚｚ』

バーン！！

頭の中を星が閃いた。

「！！」

顔を上げると、出席簿を振りかざした数学教師の顔が有る。

「話も聞かんとは余裕だな、ん？…チョットこの問題解いてみろ！」

頭から眠気が一気に消し飛ぶ。

そして黒板には複雑な無理関数の問題。

『無理…』彼は心の中で呟いた。当然だ、１０秒前まで爆睡していた人間が、数学のメンドクサイ公式やら解き方なんて思い出せるわけない。

いや、正しくは思い出す努力もしないわけだが…。

こうなれば、彼に残された選択肢は少ない。
あの勝ち誇った数学教師の顔面にパンチを入れるか…あるいは、４階の窓から突き落とすのも良い。

―まてまて―
違う違う、そんなことをしたら一瞬で退学だろう。
ヘタすれば警察沙汰だ。
そんなリスクは犯せない、やっぱりここは毒・・・
じゃなくて、素直に期待に応えよう。
「…わかりません」
彼は教師な期待通りの言葉を吐くしかない。
「ア～レ～？こんな問題楽勝だろ？だから寝てたんだよなあ？俺の話も聞かずにな」
おそらくこの台詞が言いたかったのだろう。教師の顔はニヤニヤを隠し切れていない。
『黙れ！！ヒトとゴリラのハーフみたいな顔しやがって！』と言いかけて止めた。

「バカはちゃんと授業を聞くんだな。座れ、アオイ」
アオイと呼ばれた青年は教師を睨んでから席に座った。
彼の名前は碧勇。（アオイ・ユウ）
ちなみに、彼は専ら名前で呼ばれる事が多い。
“アオイ”では、女の子みたいだからである。
プロフィールを簡単に紹介しよう。

まず年齢は１７歳、現在高校２年生。所属クラブは無し。
趣味は読書で、特技はピアノ。と、これだけ見ればオトナシそうな印象を受けるが、初対面の人に趣味を言っても、おそらく信じてもらえないだろう。

その一番の理由は何が原因か真っ白な髪の毛である。それに加えて女か男か判らないような中性的で端正な顔立ち。さらに、ホストと間違われてもおかしくない雰囲気。
明らかに遊んでそうなオーラを放っている。
実際、軽そうな女からの逆ナンなんて日常茶飯事だ。
が、人見知りがヒドイせいでイマイチ上手く喋れない。
結局、女の方が脈無しと判断して、離れていってしまうのである。

こんな感じの高校生（通称ユウ）は大体平和な日常を送っていた。

あの瞬間までは…

第3曲『家族』

それにしても何だったのか…あの夢は。
随分おかしな夢だった気がする。
ユウは今さっき見た夢を思い出そうとした。
しかし、曖昧にしか思い出せない。
『そうだ…、確か車に乗ってたような…』
結局、ユウの思考はそこで止まってしまった。
教師の
「起立！」
の号令で周りが騒がしくなったからだ。
これで今日の授業は終わりである。
ユウは、一緒に帰ると言っている女の子をすりぬけ、友人の“勉強会”も上手く躱してバイト先に向った。
ちなみにこの勉強会、名前ばかりで専ら集まって飲み会を開くだけらしい。

バイト先のガソリンスタンドでの仕事を終えて、家路に着いたのは既に１１時をまわっていた。
その帰り道、ユウは不思議なものを目にする。
いつも通り過ぎる普通の空き地、しかし、今日は何故か明るい。光り輝いていると言ったほうが正しいかもしれない。『珍しい、花火か？』ユウは訝しがりながらも、その時は特に気に止めずに通り過ぎた。

花火にしては光が大きかった事、人の気配はおろか、通常聞こえるはずの花火の音すらしていなかった事に気が付いたのは、家に帰ってからだった…。

「ただいま…」
ユウは呟いた。
ユウは一人暮し、
「おかえり」
と言ってくれる人は誰も居ない。
家族は小さい時に事故で死んでしまった“らしい”
と言うのも、ユウが家族について何一つ覚えて居ないからだ。
必死になって思い出そうとしてみるのだが、何故か激しい頭痛がして、思い出せない。
家族に関する記録…
写真や日記なんかも、全く残っていない。

結局、生活して行くためにはひとまず両親の事は置いて、働くしかない。

ユウは、家族が欲しかった。
ゆっくりとくつろげる居心地の良い居場所が…。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n7233a/

aNotHr worlD　　～戻りたいのに忘れたい時間～

2010年10月12日07時42分発行